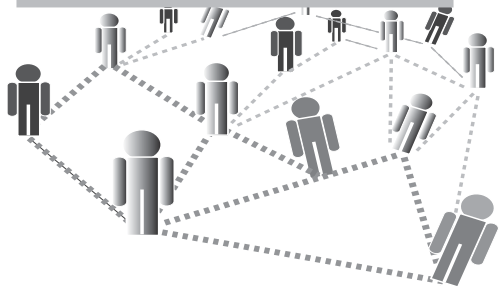


シリーズ連載

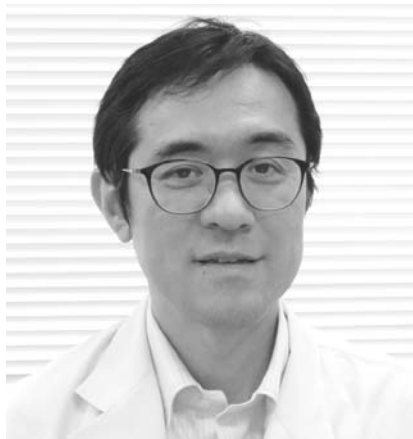
第62回 糖尿病



患者・会・リ・レ・イ・ン・タ・ビ・ュ・ー

会の活動を通じて 地域コミュニティに貢献

糖尿病患者友の会「保土ヶ谷さくら会」運営スタッフ代表 (JCHO横浜保土ヶ谷中央病院糖尿病内科・統括診療部長) 岡本芳久氏



糖尿病患者友の会「保土ヶ谷さくら会」運営スタッフ代表・岡本芳久氏

日本糖尿病協会に加入し、それぞれの医療機関で独自性をもった活動を行う「友の会」は、糖尿病患者とその家族、医師、看護師、栄養士などの医療スタッフで構成され、糖尿病患者とその家族に「より充実した生活を送ってほしい、病気に負けないで頑張ってもらいたい」との願いから作られたサークルだ。2017年6月に発足した神奈川県・横浜保土ヶ谷中央病院の「保土ヶ谷さくら会」もそんな「友の会」の1つ。同院の糖尿病内科・統括診療部長で、会の立ち上げにも携わった岡本芳久氏は約2年の活動を振り返り、糖尿病領域における地域コミュニティへの貢献を肌で感じているという。

――発足から2年と比較的新しい会ですが、立ち上げの経緯を教えてください。

当院では以前、糖尿病内科の常勤体制をとっておらず非常勤で対応していた。それが約3年半前に私を含めて3人(現在は4人)の常勤体制をとることができるようになった。非常勤医が週数回だけ外来患者のみを診る体制と、複数人の常勤医が毎日対応できる体制とでは診療内容や対応できる幅が大きく変わってくる。この常勤体制をとることができたのは本当に大きかった。実際に、常勤体制をとることで多くの患者を受け入れることができ、入院にも対応できるようになった。それが地域に伝わった。それが地域に伝わり、開業医の先生からの紹介も増えた。

――「保土ヶ谷さくら会」ではどのような活動を行っていますか。

当院に通院中の糖尿病患者さんやそのご家族、周辺地域住民の方を対象に活動を行っている。現在では22人が会員登録しており、これとは別に当院のスタッフ10人程度が参加している。会長は患者さんに務めているが、実際の運営は病院スタッフが行う形だ。年会費は1人3000円で、会員になると日本糖尿病協会が月1回発行している糖尿病の専門誌「さかえ」を受け取れるほか、当院が毎月開催している「糖尿病教室」

への無料参加、「保土ヶ谷さくら会」が主催するイベントへの優先申し込みが可能となる。イベントは、ウォーキングや料理教室など年2回程度行っている。直近のウォーキングラリーでは、午前中を使って近所の横浜国立大学のキャンパス内を参加者一同で歩き、その後病院に戻ってヘルシー弁当での昼食や簡単な講義を行った。料理教室ではクリスマスランチということになり、毎週11月14日はインスリン発見者であるパンスリン博士の誕生日にちなんでWHOが定めた世界糖尿病デーであるが、世界中で何千もの糖尿病関連イベントが開催されている。

「友の会」には、糖尿病は1人で悩むものではなく、皆で励ましあい、相談しあっているという基調がある。患者本人やその家族だけではなく、病院スタッフや他の患者さん、地域コミュニティの方々と糖尿病に取り組み仲間としてのつながりを実感できたり、様々な情報交換をしたりすることができる。我々医師や医療スタッフとも診察室以外で会う機会も増えるので、自然と会話も増え、質問などもしやすくなっている。患者さんにとって、糖尿病は一生付き合っていくかなければならない病気なのだが、中には自己判断で治療を中断してしまう人もいて、医師の立場としては、無くなりたいと考える。病院に定着してもらおうという意味も含め、患者会に対する期待は大きい。1人で悩んでいると、どうしても悲観的になってしまう。病気に向き合うことが出来なくなってしまう。患者会に参加する患者さんは治療に前向きで、イベントにも積極的に取り組む方が多く、それはとても良いことだと思えているのだが、その一方で、もっと積極的に治療に取り組んで欲しい患者さん、1人で悩んでしまっている患者さんの参加はあまり見られない。この傾向は日本全国どこでも同じだと思うが、解決すべき課題と言えるだろう。

――今後の目標などがあれば教えてください。

いわばサークル的な活動なので特別な目標は掲げていないのだが、現在実施している月1回の糖尿病教室や、年2回ベースでのイベント開催を継続していきたいと考えている。当院では、糖尿病の診療体制が今の形になってから、糖尿病治療の中でも特に大切な自己管理・療養について患者さんに指導するための「日本糖尿病療養指導士」の資格を取得するスタッフが増えた。このスタッフを通じて、患者さんにインスリンの使い方を指導したり、フットケアを実践したりと、さらに患者さんに寄り添った活動を行うことも進めている。

糖尿病患者友の会「保土ヶ谷さくら会」
<https://hodogaya.jcho.go.jp/hodogaya-sakurakai/>
問い合わせ先：JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院
患者サポートセンター (TEL:045-331-1559)

「薬事ニュース」のデジタル版
雑誌のオンライン書店 **Fujisan.co.jp** から購入できます。
デジタル版見本紙あり!
特徴
・iPhone/iPad対応
・保管場所をとらない
・新聞中身まるごと検索
・直リンクで直接URLにジャンプ
・ズーム機能など閲覧ツール充実
(※まるごと検索、直リンクについてはPCで閲覧する場合のみ有効)
デジタル版年間購読で 47% OFF
通常版1部購入の
1部:300円、年間9800円
(通常版=1部:370円、年間1万2600円)
クイックアクセス: <http://fujisan.co.jp/yakuji>
または「富士山マガジン」で検索→サイト内検索ウィンドウで「薬事ニュース」→デジタル版を見る